

第27回学術集会,指定インフォメーションエクステンジ
「転倒転落予防を目的として身体抑制等のあり方について考える」実施報告

企画

開催日時:学会1日目 2023年8月25日 13:10~14:10

開催場所:第4会場(5F ホールB5-1) 座席数:200席

企画主旨

2016年、兵庫県立西宮病院では、認知症患者の男性(当時87歳)が転倒により重い障害を負った事例がありました。判決によると、男性は早朝、看護師に付き添われながらトイレに入ったが、看護師は男性が用を足す間に別室患者の排便介助をしていたところ、男性はトイレを出て廊下を1人で歩き、転倒して外傷性くも膜下出血と頭蓋骨骨折のけがを負い、2年後に心不全で亡くなりました。裁判では、認知症の男性から目を離せばトイレを出て転倒する可能性が高いことが「十分に予見できた」と認定され、約532万円の支払いが命じられました。

この事例を踏まえ、本企画では転倒転落予防を目的として身体抑制等のあり方や倫理的課題について議論を深めます。本企画を通じて、看護管理に関わる参加者一人ひとりが自身の職場の課題を改めて認識し、改善策に取り組み、安全で質の高い医療環境の実現に貢献していくことを目指します。

企画概要

二部構成にて実施した。

第一部:福本京子氏(医療法人笠松会有吉病院元ケア部長)による「転倒転落リスクに関する倫理的課題と成功事例およびその成功要因について」の講演を実施した。

第二部:講演終了後、参加者の属性や転倒転落・身体抑制の状況を問うリアルタイムアンケートを実施した。リアルタイムアンケートの結果を会場で共有した後に、3~4名のグループに分かれて頂き「縛らないケアの実践のために看護管理者としてアクションすべきこと」に関してグループディスカッションを行った。グループディスカッション後、会場より全体にディスカッション内容の共有を行った。

数値実績

		備考
参加者数	200席満席 +60人程度の立ち見	会場満員につき、入場制限
リアルタイムアンケート回答者数	215人	
事後アンケート回答者数	172人	

リアルタイムアンケート結果(参加者の属性や転倒転落・身体抑制の状況)

●質問1: 所属施設はどちらですか？

回答数: 215

病院	93%
教育機関	3.7%
介護施設	1.9%
その他	1.4%

●質問2: 所属施設の規模を教えてください

回答数: 214

500床以上	38.8%
100~299床	31.3%
300~499床	22.4%
50~99床	3.3%
20~49床	1.4%
無床	1.4%
その他	1.4%

●質問3: 所属施設のタイプを教えてください

回答数: 214

急性期病院	68.7%
慢性期病院・回復期リハビリ病院	15.9%
総合病院	6.5%
精神科病院	1.9%
特別養護老人ホーム・介護施設	1.9%
その他	5.1%

●質問4: 役職は何ですか？

回答数: 215

看護師長	38.6%
------	-------

看護部長	23.7%
副看護部長	19.1%
看護主任	10.7%
看護教員	2.3%
その他	5.6%

●質問5: 過去1か月間での自施設での転倒転落の発生頻度はを教えてください
回答数:213

1~4回発生している	43.7%
9回以上発生している	32.9%
5~8回発生している	14.6%
その他	8.8%

●質問6: 自施設での転倒転落の発生場所はどこでしょうか？(複数回答可)
回答数:210

ベッド周辺	200
病室出入口	30
廊下	54
洗面台	15
浴室	8
トイレ	107
共用スペース	12
外来	2
その他	3

●質問7: 自施設での転倒転落の発生原因は何でしょうか？(複数回答可)
回答数:210

足元の障害物や段差	18
薬物の影響	63

転倒予防の対策不足	53
体力やバランスの問題	143
認知の問題	161
スタッフの人手不足の問題	74
アセスメント不足	112
利用者さんに十分に説明ができていない	15
看護師の介助方法の未熟さ	1
こどもの理解不足	1
想定外の動き	1
病棟の作り	1

●質問8: 自施設での転倒転落の発生する時間帯はどれですか？（複数回答可）
回答数:208

朝方	91
昼間	18
夕方	43
夜間	143
24時間均等に発生している	33
勤務交代時	1

●質問9: 自施設での転倒転落に対するPDCAは行っていますか？
回答数:210

はい	81.9%
いいえ	14.3%
その他	3.8%

●質問10: 自施設で身体抑制は行っていますか？
回答数:212

はい	93.4%
----	-------

いいえ	4.7%
その他	1.9%

●質問11:自施設での身体抑制に対するPDCAの実施はしていますか？

回答数:211

はい	75.4%
いいえ	19.4%
その他	5.2%

会場からのディスカッション報告

①Aさん

「意識が低いので、すぐにスタッフが抑制してしまう」

「まずはスタッフに、ミトンや抑制を体験をさせようと思う」

②Bさん

「医療安全の研修で、身体抑制の研修をしたら、ベッドの上で縛られたのが怖かったという意見があり、効果があった」

「点滴抜去予防のために抑制をすることが多いが、テープの固定の変更でも効果があった」

③Cさん

「インシデントが多い。ただ、怪我をしなればよいと思っていた。怪我をして、裁判で損害賠償を受ける状況になってきた。尊厳を損なわないように本人や家族と免責事項の契約をして訴えられないようにしないと、スタッフがつらい。急性期より介護のほうが抑制をしてはいけないという意識がある。そのため、急性期の教育で人権意識などを高めるために、ラダーにも組み込めるとよい」

事後アンケート

●質問1:今後アクションしていきたいことは何ですか？(自由記載)

回答数:121

回答内容は、大きく5種類に分けられた。

1. 身体拘束の問題への取り組み

- 身体拘束の減少、低減、廃止の取り組み
- 抑制の体験・体験研修を提案
- 身体抑制の低減への取り組み
- 抑制についての情報提供、アセスメント能力の向上

2. 環境調整への取り組み

- センサーマットの利用や不利用に関する検討
- 転倒予防と安全な環境づくり

3. 倫理・人権に関する取り組み

- 倫理的課題、研修、カンファレンスへの取り組み
- 抑制のアセスメント時に抑制する目的意識を持つこと
- 患者の尊厳や人権を守るための意識改革

4. コミュニケーションと教育に関する取り組み

- チームでの話し合い、スタッフ教育の強化
- 現場教育、ディスカッション、グループワークの推進
- スタッフや患者、家族とのコミュニケーションの向上

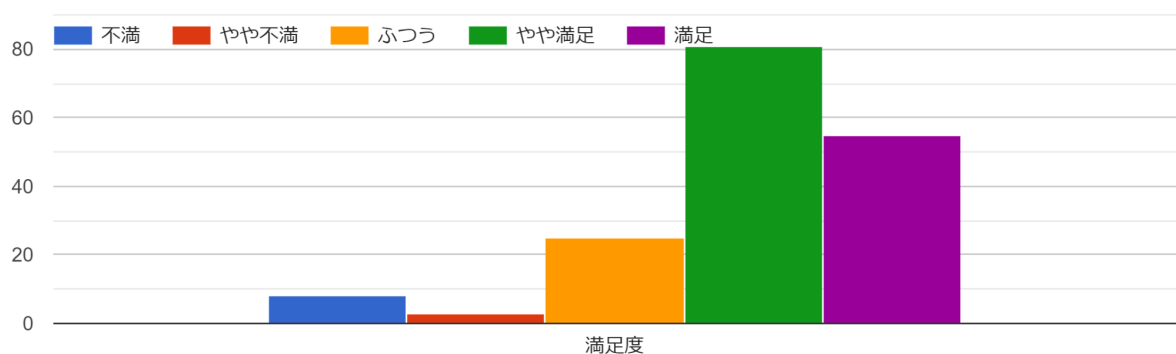
5. その他の提案

- 病院全体での取り組みや方針の策定
- 患者の転倒や抑制に関するストレス緩和
- 看護の質の評価と報酬の関連研究
- 抑制に関する管理者としての役割や指導

●質問2: 企画満足度

回答数: 173

当企画の満足度



●質問3: 上記満足度の理由を教えてください

回答数: 133

以下に、参加者からの主な意見と感想を抜粋します。

1. 企画の有益さ

- センサーマットがない中での把握方法について、自施設の課題として共感。
- リアルな問題や実践ベースの講義が非常に参考になった。
- 他施設の取り組みや意見の共有が貴重であった。

2. ディスカッションの評価

- ディスカッションによって様々な意見や問題点を共有できた。
- グループワークやディスカッションでの意見交換が充実していた。

3. 時間に関する意見

- 企画の時間が短く感じた。
- もっと会場の意見を取り入れたい。

4. 抑制に関する意見

- 身体抑制のあり方や意義について改めて考える機会となった。
- 抑制しないための具体的な方法や例についての情報が求められている。

5. その他の意見

- 企画の内容や形式に関して、参加者の関心や意識が高いことが確認された。
- 新しい情報や具体的な対策に関する要望があった。

●質問4: 関心のある倫理的課題を教えてください

回答数: 78

多様な回答があった。以下、主要なテーマや課題を整理した。

1. 身体拘束・身体抑制: 患者の安全や他の患者・スタッフの安全確保のために用いられることがあるが、患者の人権や尊厳を守ることとのバランスが課題。

2. DNAR (Do Not Attempt Resuscitation): 蘇生措置をしないことを意味する。患者の意向や家族の意向、医療従事者の判断との調整が必要。

3. 治療選択: 患者の治療方法に関する選択権や意向をどのように尊重するか、医療従事者と患者とのコミュニケーションの重要性。

4. 意思決定支援: 高齢者や認知症患者など、自らの意向をはっきりと伝えることが困難な患者の意思決定をどうサポートするか。

5. 終末期医療: 終末期の患者にどのようなケアや治療を施すべきか、家族とのコミュニケーションなど。

6. インフォームドコンセント: 患者に治療方法やリスクなどを十分に説明し、その上で同意を得ることの重要性。

7. ハラスメント: 医療現場でのセクシャルハラスメントやパワーハラスメントなど。
8. 虐待: 高齢者や子供、障害者などの虐待の課題。
9. トランスジェンダーの方の名前確認: 性同一性障害やジェンダーの問題に配慮した接遇。
10. アセスメント: 正確な評価・診断を行うことの重要性。
11. 告知: 病状や治療に関する情報を患者や家族にどのように伝えるか。

●質問5: 今後の倫理研修で取り上げて欲しいテーマ (複数回答の説明)
 回答数: 166

看護職の倫理綱領16項目	37
生命倫理の4原則(自律尊重原則、善行原則、無危害原則、正義原則)	46
臨床倫理の4分割法(医学的適応、患者の意向、QOL、周囲の状況)	47
看護職のウェルビーイング	33
組織倫理に関すること	45
倫理コンサルテーション	37
内部通報の仕組みづくり	12
終末期ケアと尊厳死に関する倫理的考察	47
プライバシー保護と情報管理における倫理的視点	27
看護実践に関する倫理的ジレンマと解決策	78

今回の企画に関する考察

参加者の意見を通して、企画の内容やディスカッションの形式が概ね好評であることが確認されました。一方で、時間に関する意見や新たな情報に対する要望が寄せられたことから、今後の企画の際にこれらの点を考慮する必要があります。

今後の提案

- 企画の時間を延長するか、より深い議論を可能にする別の機会を設ける。
- 抑制に関する具体的な方法や実践例の紹介を増やす。
- 他施設の取り組みや実例を更に取り入れる。